

名古屋市地域日本語教育推進の考え方2025-2029概要版

はじめに

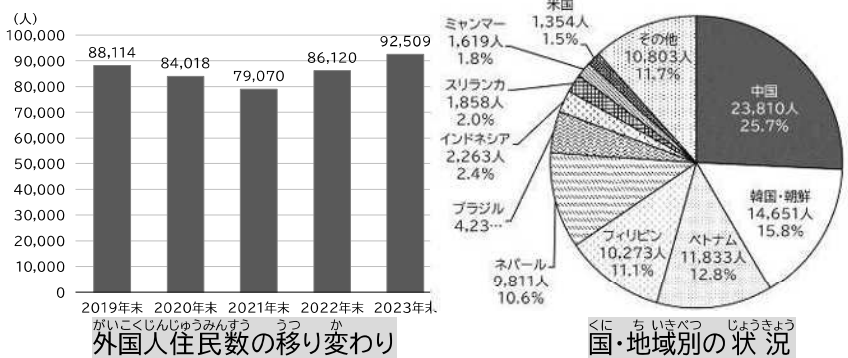
名古屋市は、国籍や民族などの違う人たちが、みんなでしあわせに生きていくことができる「多文化共生都市」を目指します。そのために、日本語の学習環境を良くしていくための考えや、やることについてまとめました。

※この概要版は、「やさしい日本語」を使って作成しています。「やさしい日本語」とは、外国人にもわかるように気を付けた、簡単な日本語のことです。

第1章 地域日本語教育の現状と課題

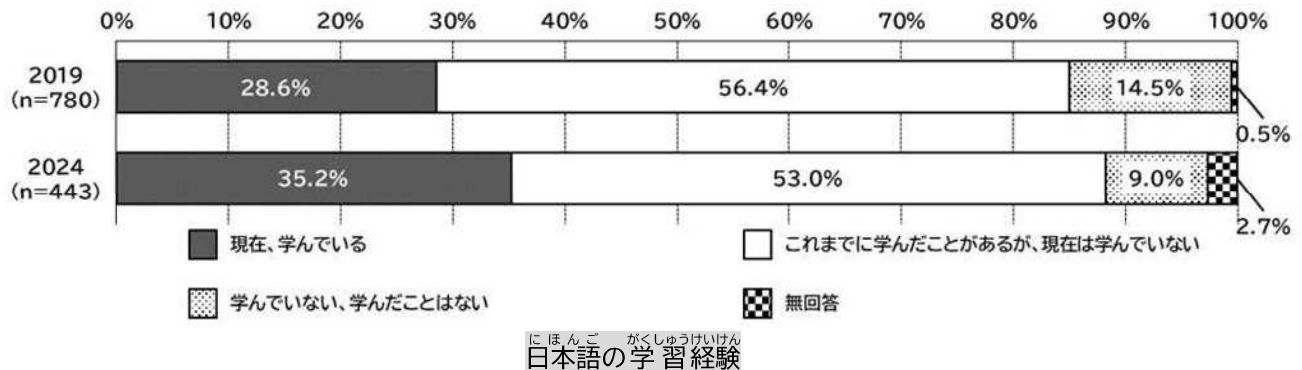
1 外国人住民の状況（「外国人住民統計」（2023年末時点）より）

名古屋市には、たくさんの国、地域から来た、たくさんの外国人が住んでいます。外国人住民は年々増えていて、2023年末には今までで最も多くなりました。今後も増えていくと考えられます。

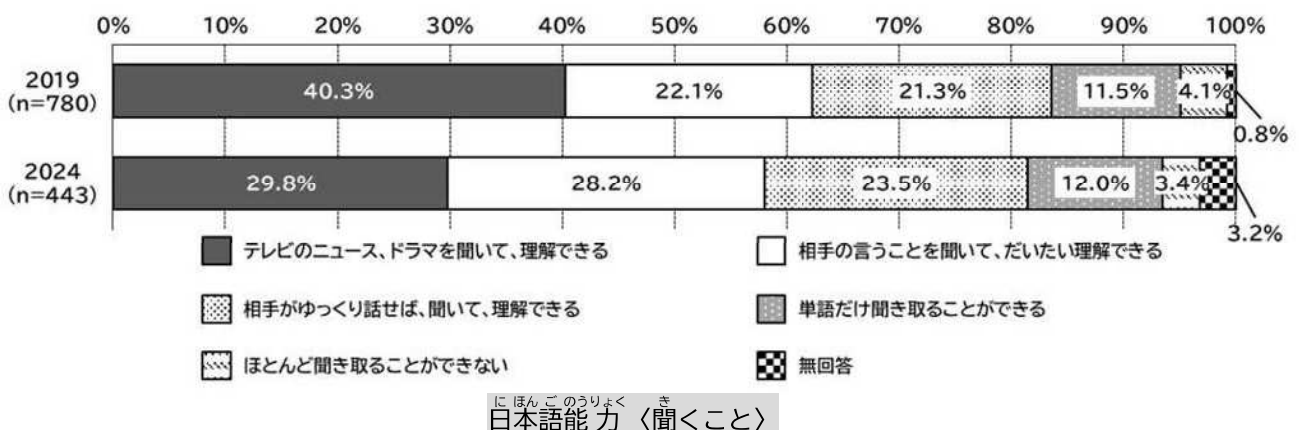


2 外国人住民の日本語学習の状況（「日本語学習についてのアンケート調査」より）

前に行った調査よりも、「現在、学んでいる」と答えた人が増えています。



日本語能力について、上から3つ目のレベルまでの人の割合は大きく変わりませんでした。（下のグラフは「聞くこと」ですが、「話すこと」「読むこと」「書くこと」も同じでした。）



日本語を学習したいと思う人が学習できるようになってきていますが、これまでに目指してきた状態には、まだなっていません。そこで、名古屋市では、今後も次のように日本語学習の環境を良くしていくことを進めていきます。

1 地域日本語教育が目指す地域の姿

日本社会の中で、外国人市民と日本人が、日本語で話すことができるようになることで、名古屋のいろいろな地域で共生社会(いろいろな文化の人が一緒に暮らす社会)が作られる。

- ・外国人市民が地域の中で、自分の力で生活を送っている。
- ・外国人市民が地域で活躍したり、社会に参加している。
- ・外国人市民と日本人がよく話すことで、相手のことがよくわかり、社会の中で一緒に生活をしている。
- ・外国人市民が日本語を学び、日本人も「やさしい日本語」(外国人市民がわかるような日本語)で話す。

2 地域日本語教育が大切に考える

日本語を学びたい外国人市民が、「生活に必要な日本語」を学べる機会を持つことができるようにします。

※「生活に必要な日本語」を学ぶ中で、生活するために必要な、日本社会のことなども一緒に学びます。

3 名古屋市が外国人市民に身に付けてほしいと思う日本語レベル

周りの人が助けてくれれば、自分の周りの社会参加が日本語でできるレベル
(周りの人が助けてくれること:「やさしい日本語」を使うことや、ゆっくり話すことなど)

- ・簡単な日本語で話してもらえれば、質問や言っていることがわかる。
- ・簡単な質問の時は、単語で答えることができる。わからない時は、もう一度話してほしいことを伝える、ゆっくり話すようにお願いすることができる。場所を聞くなど簡単な質問ができる。
- ・外国人がわかるように書いてあれば、生活でよく見ることが多い言葉や文章の意味がわかる。
- ・50音図や辞書を調べたり、周りの人が助けてくれる時は、手紙などの短い文章が書ける。

4 地域日本語教育が特に必要な外国人市民

日本に住む外国人市民の中で、身に付けてほしいと思う日本語レベルにまだっていない人

- ▼日本語を学びたいと思っている人⇒日本語を学ぶ機会を持つことができる
- ▼日本語を学びたいと思っていない人⇒日本語を学ぶことが大切なことだとわかる

第3章 基本施策

さまざまな人・団体と協力し、日本語を学ぶ場所を増やし、日本語教育をする人を育てます。
また、日本語をたくさんの人に学んでもらえるよう、日本語学習の情報を届けていきます。

1 日本語学習の場所や機会づくりを進めます

例えば…日本語教室の困りごとを解決する手伝いをする
学習する人の希望にそった新しい教室をつくる など

2 地域日本語教育を行う人を増やしたり育てたりします

例えば…日本語を教える人を増やす
日本語を教える人が長い間活動できるよう手伝いをする など

3 地域日本語教育の情報を集めたり渡したりします

例えば…日本語教室の情報などを集める
日本語教室をインターネットで探せるようにする など

4 外国人市民に、日本語学習の大切さを伝えます

例えば…生活の中で日本語が使えることの大切さを伝える
日本語を学習したくなるような催しを考える など

5 日本人市民に、外国人市民の日本語学習について理解するよう伝えます

例えば…外国人市民の状況を、日本人市民に向けて伝える
役所の手続きなどで「やさしい日本語」が使えるようにする など

6 日本語学習の環境を良くしていくための体制を作ります

例えば…外国人や日本語学習に詳しい人から意見を聞く場所を作る
役所全体で日本語学習の環境を良くしていけるようにする など

1 推進体制

次の人・団体と協力して、日本語の学習環境を良くしていきます。

- 1 国、愛知県、名古屋市などの役所
- 2 名古屋国際センター
- 3 日本語教室をやっている団体
- 4 多文化共生推進や外国人支援をしている団体
- 5 日本語学校や、学校で日本語を教える人を育てる機関
- 6 企業・大学
- 7 町内会、自治会
- 8 日本語教育に関心のある人・団体、外国人市民など

2 成果測定

名古屋市全体で次の割合の数字が良くなることを目指します。

項目	2024年度
外国人市民の日本語能力（聞く） 「相手がゆっくり話せば、聞いて、理解できる」以上の割合	81.5%
外国人市民の日本語能力（話す） 「かんたんな日常会話であればできる」以上の割合	74.9%
外国人市民の日本語能力（読む） 「広告やチラシ、駅の時刻表や案内を見て、欲しい情報がわかる」以上の割合	65.7%
外国人市民の日本語能力（書く） 「職場の同僚、家族などに要件を伝える簡単なメモを書くことができる」以上の割合	65.9%
学びたい人で、現在学ぶことができている外国人住民の割合	40.7%

名古屋市地域日本語教育推進の考え方 2025-2029（2025年2月）

名古屋市 観光文化交流局 国際交流課

公益財団法人 名古屋国際センター 事業課

TEL:052-972-3061

MAIL: a3061@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp